

## 趣旨説明

著者	高田 智和
図書名	世界の漢字教育：日本語漢字をまなぶ：国立国語研究所第8回NINJALフォーラム
ページ	4-4
発行年	2017-01-20
シリーズ	NINJALフォーラムシリーズ；6
URL	<a href="http://doi.org/10.15084/00000936">http://doi.org/10.15084/00000936</a>

第二言語として日本語を学ぶ場合、さまざまな課題があります。大きな課題の一つに、漢字の習得があります。特に、母語表記に漢字を使っていない非漢字圏の学習者にとっては非常に大きな課題となります。表音文字だけ使っているわけですから、数が多く、一文字の読み方が複数あり、字の形も複雑な漢字を、どうやって身につけるのが大きな課題です。

このことは漢字圏の学習者にとっても問題となります。同じ漢字だから大丈夫だろうと思うかもしれませんが、中国語、韓国語、日本語と言語が異なれば、同じ文字であっても表わすことば(単語)が変わるため、大きな課題となります。

本フォーラムでは五人の報告者をお招きし、かつて日本語学習者として漢字を学び、いま現在、日本語教師として日本語の漢字を指導している経験から、母語の違いによって日本語の漢字との向き合い方が異なるということを会場の皆様にお伝えします。そして、学習法の提案、実践方法、第二言語習得のなかでの漢字教育の問題点について議論します。

